

看護人材の確保・定着に係る実態調査の結果について

行財政・医療福祉対策特別委員会 資料2
令和7年(2025年)6月30日
健康医療福祉部 医療福祉連携室・医療政策課

看護系養成所の学生アンケート結果の概要

調査概要

1 目的

看護系学生の進路選択等に係る意向を確認し、新規養成に係る施策の検討材料とする。

2 調査方法

県内の看護師養成機関（専門学校・大学）に在籍する1・2年生を対象にWEBによるアンケートを実施
（今後、3・4年生を対象に就職等に係るアンケート調査も実施予定）

3 回答者数

699人（R7.4月時点の各校在籍1・2年生の合計：998人 回答率：約70%）

〔回答者の区分〕

（単位：人）

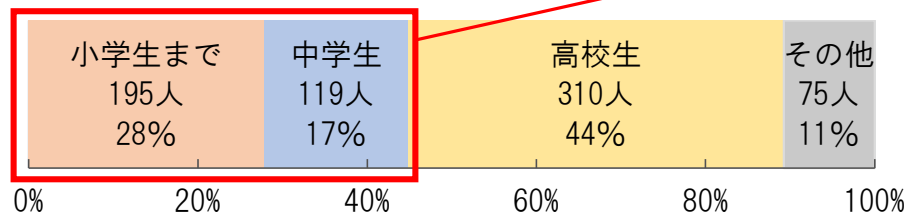
	一般入学	推薦入学	社会人入学	地域枠入学	合計
大学生	149	69	－	31	249
県内出身	67	61	－	26	154
県外出身	82	8	－	5	95
専門学校生	110	275	65	－	450
県内出身	101	269	58		428
県外出身	9	6	7		22
合 計	259	344	65	31	699

※ 3校中2校の学生から回答

※ 8校中7校の学生から回答

1. 看護職の選択

(1) 看護職を目指し始めた時期



- 小、中、高それぞれで回答があったが、看護職は他職種に比べ、比較的早い段階で志す人が多い傾向。
- こうした層へのアプローチを考えていく必要。

(2) 看護職を目指した理由

(単位：人)

	大学	専門学校
① 人の役に立ちたいから	108	227
② 医療系の仕事に就きたいから	121	124
③ 看護の仕事に興味があるから	106	175
④ 就職できる確率が高いから	28	43
⑤ 地元で就職できると思うから	5	16
⑥ 国家資格が必要な専門職であり、就職に困らないから	98	127
⑦ 給料が比較的高いと思うから	69	128
⑧ 長く続けられる職であるから	70	114
⑨ 家族、親族に看護師がいるから	53	91
⑩ 保健師、助産師になりたいから	63	43
⑪ その他	7	13

人の役に立ちたい、医療・看護への興味が両方で上位

- 看護職を目指す理由がはっきりしており、こうしたニーズは、今後も不変的に存在すると思われる。

安定性・経済性を理由とする回答も多い

2. 進路選択

(1) 高校1年時点での志望校と進学先

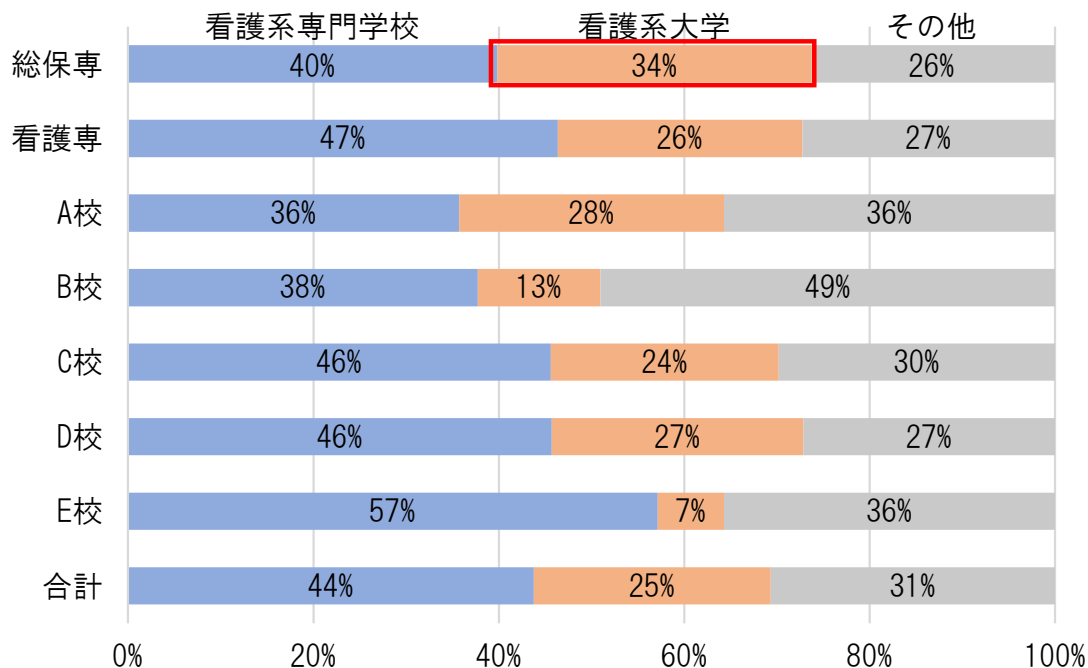
(単位：人)

進学先 (現在の在籍)	進学先		
	合計	専門学校	大学
高1時点 の志望校			
看護系専門学校	201 (29%)	197 (44%)	4 (2%)
看護系大学	304 (43%)	115 (25%)	189 (76%)
その他	194 (28%)	138 (31%)	56 (22%)
合計	699 (100%)	450 (100%)	249 (100%)

専門学校生の4割以上は、高1の時から専門学校を志望
高1の時に専門学校を志望し、最終的に大学に進学した学生は僅少

- 専門学校を選ぶ学生は、早い段階から専門学校を進路に決めており、大学志向が進む中であっても、専門学校の底堅いニーズが読み取れる。
- また、高1の時に大学を希望していても、最終的に専門学校に進学した学生も一定数存在。

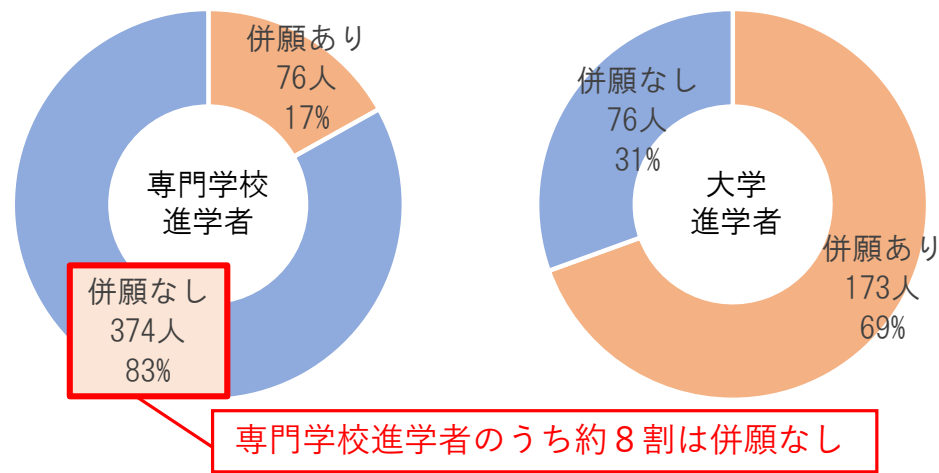
(2) 専門学校進学者の高校1年時点での志望校の割合



- 学校別にみると、総保専は、高1時点で大学を意識していた学生の割合が高いが、その他の専門学校ではさほど高くない。
- このデータから見る限り、専門学校と大学の競合（大学志向による影響）は、すべての学校に当てはまるわけではない。

2. 進路選択

(3) 併願状況



- 実際の進路選択においても、専門学校進学者の多くは併願なしで学校を選んでいる。これは、年内に進学先が決まる「推薦」の割合が高いことも一因。
- 大学進学者の併願先は、受験日程の関係や県内大学の選択肢が限られることもあり、京都等の私立大学が選択される傾向。（第一希望不合格の場合は、県外に人材が流出）

(4) 大学進学者の併願先

◆県内出身者		(単位：人)
	滋賀医大進学者	県立大学進学者
滋賀県内の大学	4 (5. 2%)	11 (11. 8%)
京都府内の大学	50 (64. 9%)	59 (63. 4%)
大阪府内の大学	15 (19. 5%)	9 (9. 7%)
兵庫県内の大学	2 (2. 6%)	1 (1. 1%)
その他の大学	- (-)	4 (4. 3%)
看護系の専門学校	6 (7. 8%)	9 (9. 7%)

併願先の上位3校

①京都橘大学

②同志社女子大学

③佛教大学

①京都橘大学

②佛教大学

③滋賀医科大学

併願先の6割以上が京都の大学

◆県外出身者		(単位：人)
	滋賀医大進学者	県立大学進学者
滋賀県内の大学	2 (2. 7%)	4 (7. 3%)
京都府内の大学	29 (38. 7%)	16 (29. 1%)
大阪府内の大学	33 (44. 0%)	20 (36. 4%)
兵庫県内の大学	6 (8. 0%)	4 (7. 3%)
その他の大学	5 (6. 7%)	9 (16. 4%)
看護系の専門学校	- (-)	2 (3. 6%)

併願先の上位3校

①大阪医科薬科大学

②関西医科大学

②京都橘大学

①京都橘大学

②関西医科大学

③大阪医科薬科大学

併願先の大半は京都や大阪の大学

2. 進路選択

(5) 志望校を選ぶ際に重視した点

	高1の時点		進路選択の時点		(単位：人) 社会人
	大学	専門学校	大学	専門学校	
① 教育内容	48	92	53	83	16
② 取得できる資格	101	151	159	136	17
③ 学校の知名度	65	87	33	47	4
④ 学校の建物や設備	34	85	42	62	7
⑤ 自分の学力との相性	46	47	119	85	6
⑥ 就職実績（就職率が高い、自分が希望する就職先への就職者が多いなど）	22	39	8	38	6
⑦ 国家試験の合格率	25	80	30	134	9
⑧ 学校の周辺環境（生活が便利、充実したプライベートが送れそうなど）	33	35	21	38	4
⑨ 通学の利便性（通学に要する時間、交通手段）	96	91	71	143	21
⑩ 親族や知人が通っている（通っていた）こと	17	50	1	35	1
⑪ 経済的な負担の少なさ	68	71	57	141	27
⑫ 奨学金制度	3	32	5	78	8
⑬ 一人暮らしができること	14	11	10	5	1

大学進学者は学力を重視

社会人は経済的な負担を最も重視

学校の周辺環境は重視されていない

通学の利便性は両方の学生が重視

専門学校進学者は国家試験の合格率や経済的な負担も重視

- 大学・専門学校とも「通学の利便性」が上位であり、住んでいる場所との距離や通いやすさが重視されている。
- 一方、生活やプライベートの面で、学校の周辺環境を評価する傾向は読み取れない。
- 専門学校進学者は、国家試験の合格率や経済的な負担などを重視する傾向があり、学生確保に向けては、こうした部分での打ち出しも重要である。

2. 進路選択

(6) 第一志望とした理由

経済性を重視

◆大学ではなく専門学校を第一志望とした理由	(単位：人)
① 仕事に役立つ知識や技術を身に付けられるから	15
② 大学よりも早く働くことができるから	20
③ 経済的な負担が少ないから	23
④ 奨学金制度が充実しているから	7
⑤ 将来、就職を考えている病院附属の学校（学部）であるから	4
⑥ 自分の学力に見合っているから	8
⑦ 大学での学びに興味がなかったから	2
⑧ 親や学校の先生に勧められたから	6
⑨ オープンキャンパスで感じた学校の雰囲気がよかったから	7
⑩ 知人等からの評判がよい学校だったから	1
⑪ その他	1

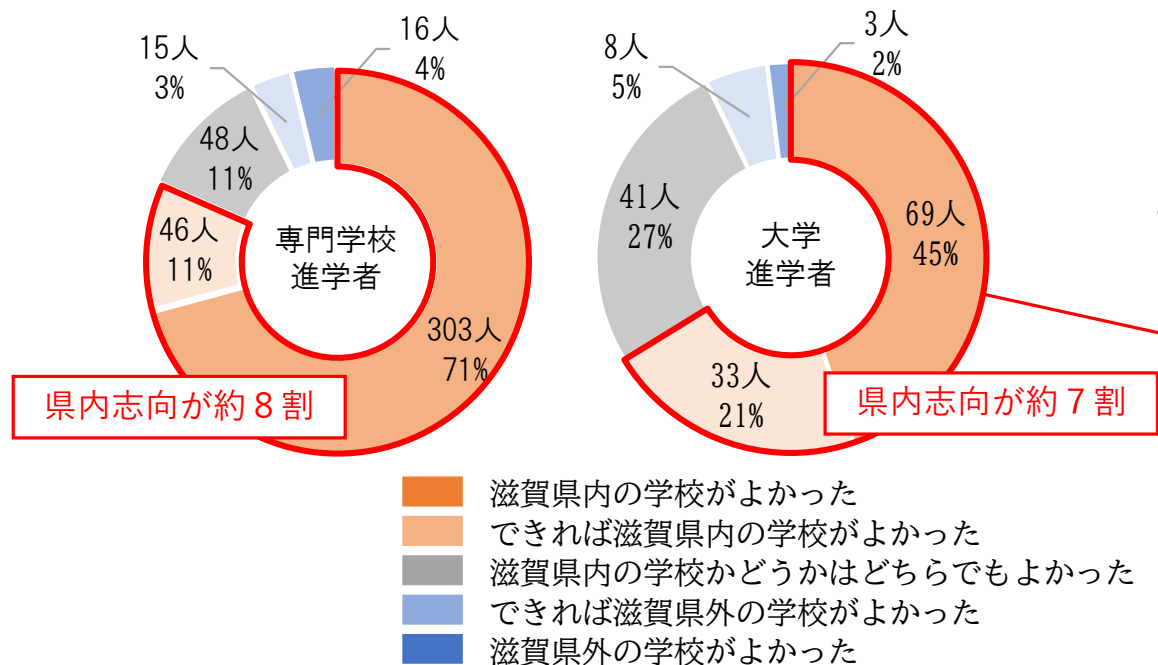
資格取得を重視

◆専門学校ではなく大学を第一志望とした理由	(単位：人)
① 大学卒業資格を取得できるから	89
② 保健師、助産師の資格を取得できるから	106
③ 自分の学力に見合っているから	49
④ 幅広い教養を身に付けられるから	42
⑤ 余裕をもってゆっくりと学べるから	40
⑥ 4年間で将来の進路を考えたかったから	21
⑦ 就職が有利になるから	47
⑧ 将来、就職を考えている病院附属の学校（学部）であるから	9
⑨ 看護地域枠制度を活用したいと思ったから	7
⑩ 親や学校の先生に勧められたから	18
⑪ 充実したプライベートが送れそうだったから	20
⑫ オープンキャンパスで感じた学校の雰囲気がよかったから	17
⑬ 知人等からの評判がよい学校だったから	2
⑭ その他	4

- ・ 専門学校を選ぶ理由としては、経済的負担が少なく、大学より早く就職できること、一方、大学を選ぶ理由としては、大卒資格や看護師以外の資格取得ができる点が上位となっている。
- ・ このように、専門学校と大学を選ぶ理由に明確な違いがあり、現状においては一定のすみ分けができていますが、今後、大学の無償化や看護師養成課程の四年制化が進んだ場合、専門学校のメリットが低下する可能性がある。

2. 進路選択

(7) 県内・県外志向（県内出身者）

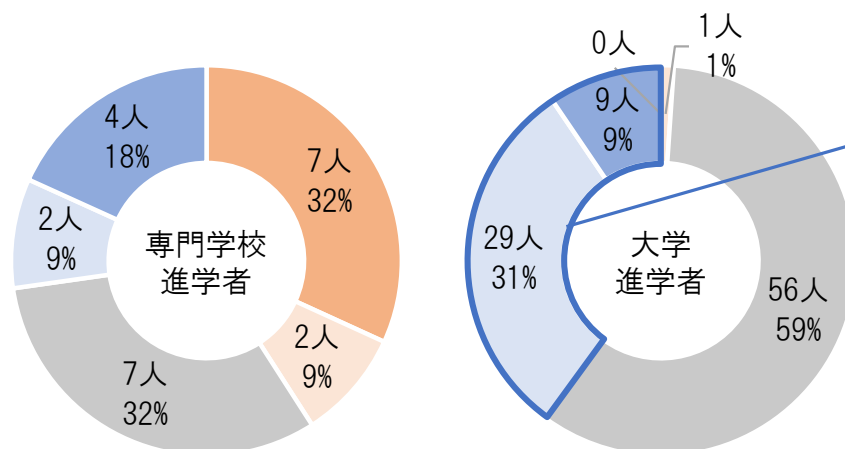


- 県内出身者は、専門学校・大学とも県内志向が強いが、大学の県外出身者は、積極的に滋賀県を選んでいるわけではなく、「どちらでもよかった」「できれば県外が良かった」という意見が大半。
- 県外出身者は、地域というよりは学校本位で進学先を選んでおり、学校の選択肢を増やすことが重要。

県内の学校がよかった理由（大学進学者）

① 行きたい学校が県内にあったから	28人
② 実家から通いやすいから	84人
③ 県内の医療機関への就職を考えているから	17人
④ 経済的な負担が少なくすむから	41人
⑤ 滋賀県に愛着があるから	13人
⑥ 家族や知人と会いやすいから	15人
⑦ 一人暮らしをしなくてもよいから	23人
⑧ 看護地域枠制度を活用したいから	12人
⑨ その他	-

(8) 県内・県外志向（県外出身者）

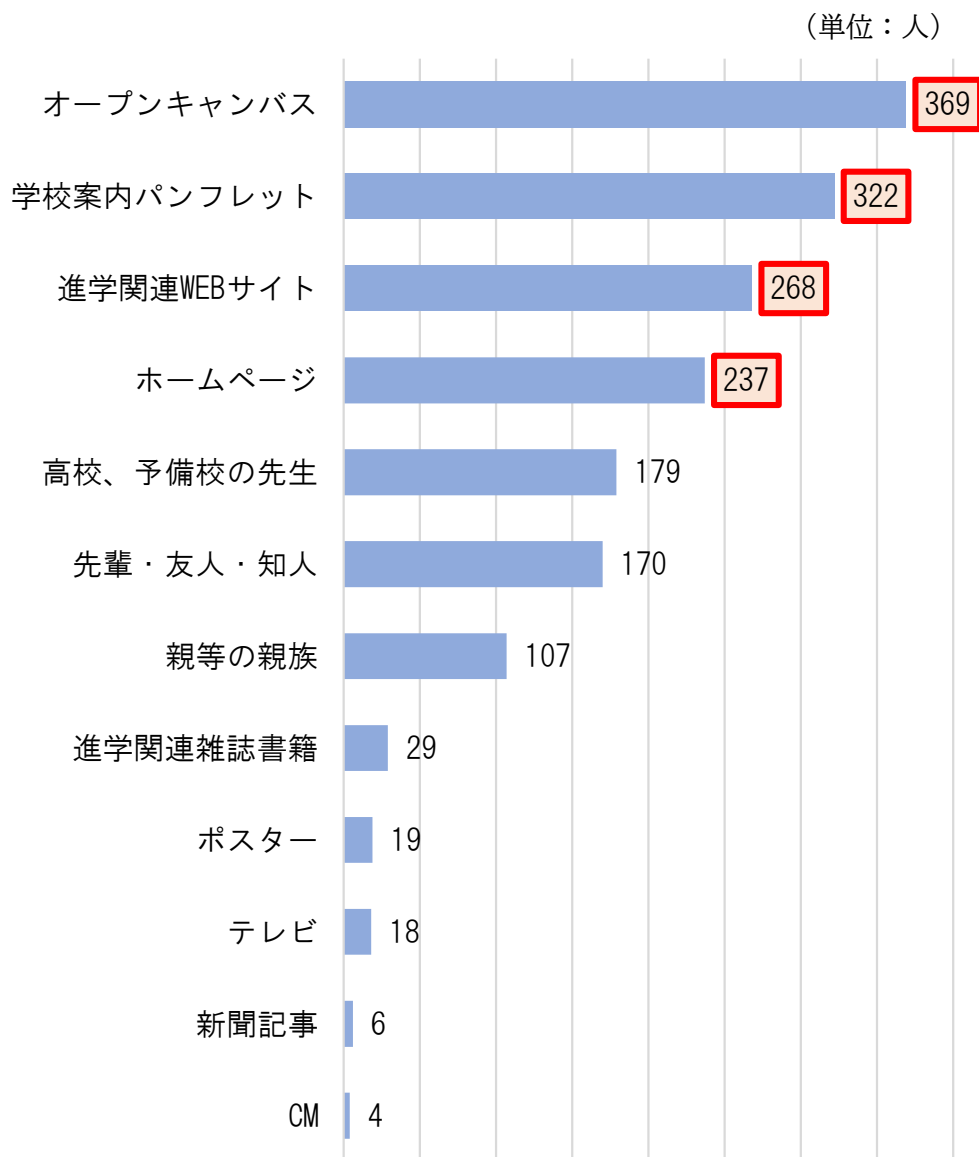


県外の学校がよかった理由（大学進学者）

① 行きたい学校が県外にあったから	24人
② 行きたい学校が県内にないから	-
③ 自分の学力に見合う学校が県内にないから	3人
④ 県外の医療機関への就職を考えているから	10人
⑤ 充実したプライベートが送れそうだから	5人
⑥ 日常生活行動範囲を広げたかったから	1人
⑦ 一人暮らしがしたかったから	1人
⑧ 実家から通いやすいから	24人
⑨ その他	1人

2. 進路選択

(9) 進路選択の際、参考にした媒体



- 進路選択に当たっては、実際に目で見て雰囲気を感じられるオープンキャンパスを参考にしたとの回答が最も多かったことから、こうした機会にいかにより学校の魅力をPRするかが重要。
- また、数ある学校の中から滋賀の学校を選んでもらうためには、WEB上での情報発信の充実も必要。

<参考①> 学生へのヒアリング結果の概要について

アンケートを補足するため、28人（1 大学5人、4 専門学校23人）の学生からヒアリングを実施

（主なコメント）

看護職を目指した理由

- ・ 一生働きたい、人と接したい、長生きしたいので医学的な知識を得たい。
- ・ 人の役に立て、感謝される看護師に魅力を感じた。

大学選択理由

- ・ 大学の進学は、偏差値、アクセス性、街のにぎわいが検討する要素になる。

専門学校選択理由

- ・ 看護師になることを決めており、早く看護師として働きたかったので大学は検討していない。
- ・ 1 年多く学費を要する大学は考えなかった。
- ・ 家から近く、面接のみで指定校で進学可能な専門学校に決めた。
- ・ 受験勉強はしたくなかったので大学は考えなかった。
- ・ 入学できなければ意味がないので第一に入学がしやすい学校とし、次に家からの近接性を重視。
- ・ 大学も考えたが、看護師になることを決めており、実用的な技術を学びたいと思ったことから専門学校を選択。
- ・ 専門学校間で悩んだが、最終的には学費が安く、家から近い専門学校を選んだ。

<参考②> 高校の進路指導教員へのヒアリング結果の概要について

アンケートを補足するため、看護系の専門学校への進学者が多い6校の進路指導教員にヒアリングを実施

(主なコメント)

志望動向	・ 看護を志望する生徒は高校入学時にある程度看護に進むと決めている。
	・ コンスタントに看護系に進学しており、看護を希望する生徒が減っているという実感はない。
大学選択理由	・ まずは滋賀医大や県大を目指す、学力的に届かなかった生徒が県外大学に進学。
	・ 学力、自宅からの距離、学費で進学先を選択する傾向。
	・ まずは県大を目指す、学力的に届かなかった生徒で経済的に余裕がある家庭が県外大学に進学。
専門学校選択理由	・ 初めから専門学校を希望する生徒は珍しいが経済的に厳しい家庭が選択する傾向。
	・ 3年間で卒業でき、学費負担が比較的少なく、多くの先輩が専門学校に進学しているため専門学校が選択される。
	・ 自宅からの距離、学費負担、設備等に加え、希望する就職先への接続を踏まえ選択されている。
	・ 自宅から通えて親が納得する就職先を母体に持つ学校が選択される傾向。
	・ 地元の医療機関に就職を希望する生徒が多く県外の専門学校に進学することはほとんどない。
	・ 看護師になることを決めている生徒にとって大学を選ぶメリットがあまりないのではないかと。
併願状況	・ 併願はしている生徒はいるが、かなり稀であり、その場合は大学を第一志望としている。

看護系専門学校へのアンケート結果の概要について

学校現場の実態把握のため、県立以外の専門学校に対してアンケートを実施（5校から回答）

1 近年の入学者数や定員充足状況

① 急激に減少しており、早急な対策検討が必要	4校
② 減少傾向にあり、対策検討が必要	1校
③ 年度によって増減があり、状況に応じて必要な対応を検討	-
④ 必要数を充足しており、現状の取組を継続	-
⑤ その他	-

2 今後の志願者の推移や学生確保の見通し

① 減少が見込まれる	4校
② 増加が見込まれる	-
③ 現状から大きな変動はなし	-
④ 将来を見通すことは困難	1校
⑤ その他	-

主な意見

- ・ 大学の看護学部が急増し、大学進学志向が高い。高校の教員の大学推しも強まっているように思う。
- ・ 大学、専門学校ともに入学しやすくなっており、養成所間の受験生の獲得競争となっている。
- ・ 少子化が進むなか、職業として看護師が選択されるよう養成所と行政が一体となって人材確保していく必要がある。
- ・ 推薦入試における評点の設定や、不合格者の存在などで学生が敬遠することがある。

3 学生確保に向けて取り組んでいること、取り組み予定

主な意見

- ・ 試験科目の選択制、一般入試の回数増加、指定校推薦の導入やオープンキャンパスの充実
- ・ 授業料減免制度の導入や、社会人入試の入試科目の見直し（学科試験科目の減）
- ・ 学校説明会、オープンキャンパス、高校ガイダンスの強化、専願者の割合の増加・入試時期の前倒し
- ・ 中学生と在校生との懇談会や、オープンキャンパスとは別に近隣の高校の生徒を招待しての授業見学や看護体験の実施
- ・ オープンキャンパス参加者に対する受験料の無料化を予定

4 学校経営における課題について

	学生確保、定員 充足	経常収支のマイ ナス、運営に係 る財政負担	学生の学力低下 や国家試験対策	教員の確保、 育成	外部講師の確保	実習先の確保	施設や備品の老 朽化、更新
① 深刻な課題と なっている	4校	5校	5校	4校	2校	－	4校
② 課題となっている	1校	－	－	－	1校	3校	1校
③ 今後、課題となる 可能性がある	－	－	－	1校	2校	2校	－
④ 特に課題ではない	－	－	－	－	－	－	－

主な意見

● 学生確保、定員充足

- ・ 受験生、入学生は激減している一方で、個々に支援が必要な学生は増加し、教員数を減らせない。
- ・ 入学生の減少は、母体病院の看護師不足に直結し、周辺の中小規模の病院も看護師不足に陥り、地域医療が崩壊する。
- ・ 母体病院の経営状況と合わせて、閉校の条件も含めてあり方検討中。
- ・ 入学生が年々減少し、収入が激減しており経営は危機的状況。
- ・ 定員充足率は半分程度となり、授業料等の収益が半減しており、次年度も同様であれば学校の継続に影響しかねない。

● 学生の学力低下や国家試験対策

- ・ 受験生が定員に満たなくなったため、ほぼ全員合格となり、学力低下が危惧される。
- ・ これまでの教育では理解できない、のみ込めない学生が多く、再試験対象者が増加している。
- ・ 学生の基礎学力が低下しているため、授業内容の理解、技術習得に多大な時間を要する。
- ・ 学生確保のため、以前なら不合格の成績の学生も入学させている。
- ・ 成績不良者が多数入学している状態で、教員はほぼ付ききりで指導して負担が増えているが、国家試験に合格できない学生もいて、教員のモチベーションが低下傾向。

主な意見

● 教員の確保、育成

- ・ 教員の仕事はしんどい、学生相手は苦痛、親も付いてくる時代なので、自分では無理等の理由で教員確保は至難。
- ・ 教員の高齢化により退職者が続く中で、新任教員の確保が難しい。
- ・ 母体病院から、経営状況が悪い学校への人材補充が困難となっている。
- ・ 成績が良くない、手のかかる学生を実習でみていることもあり、臨床から教員研修を希望する職員がいない。

● 外部講師の確保

- ・ 医師や大学教員は教えるレベルを落とせないことから、様々な学力の学生が一定理解できるような講義を依頼することが困難を極めている。
- ・ 外部講師が見つからず、一人の先生に5科目担当してもらっていることもある。

● 施設や備品の老朽化、更新

- ・ 投資が大きいのので、母体病院にかなりの負担をかけている。
- ・ トイレや外壁修繕だけでなく、ICT環境やシミュレーター等を更新していかなければならず経営は常に苦しい。
- ・ 優先度が高いものから整備計画を立てているが、一時しのぎ的な改修であり、根本的な解決にはなっていない。

5 存廃も含めた学校のあり方の検討

① 存廃も含めた学校のあり方について検討している（検討する予定がある）	4校
② 定員縮小について検討している（検討する予定がある）	-
③ 学校のあり方と定員縮小の両方について検討している（検討する予定がある）	1校
④ 特に検討していない（検討する予定はない）	-

県に期待すること

- ・ 人口減少の中、新入生の入学増は望めないことから、社会人の学生を掘り起こすことが重要であり、社会人とのマッチングの場が必要
- ・ 県、看護学校協議会、看護協会と連携した広報活動
- ・ 高校進路指導教員に学校のことを正しく理解してもらえるよう懇談の機会の設置
- ・ 看護専門学校の再編や、県立学校の立ち位置や補助金のあり方を含めて検討が必要（このままでは専門学校の定員割れは続き、閉校せざる得ない学校がでてくる）

県の看護人材養成に対する主な意見

- ・ 地域医療を支えていくためには地域で働いてもらえるように地域で育てるしかなく、ここで踏ん張らなければ、この地域の医療は破綻するかもしれない、それくらいの危機感をもって人材育成をしている。
- ・ 県が地域の看護師不足を何とかしようと思っているのであれば、民間の人材確保にも更なる支援いただきたい。
- ・ 県内のどこの専門学校も学生確保が困難な状況であり、各学校の問題ではなく、県全体で再編を含めた活動を加速していただきたい。

- ・ 専門学校の入学者数が年々減少し、今後も減少が見込まれるなかで、学生や教員の確保、施設老朽化や収益の減少等により学校経営は深刻な課題が生じている。
- ・ 閉校の検討をしている法人もあるなど、専門学校を取り巻く状況は非常に厳しいことから、看護人材の確保・定着に向けて、専門学校全体でどのような施策を講じていくのか、総保専のあり方も含めて検討が必要。

アンケート結果を踏まえた今後の検討の方向性について

全 体

- 看護師への志望動機を抱く小・中学生等の若い世代に対して社会貢献ができる看護師の魅力発信
- 社会に出てからも看護職を目指す者が一定数いることから、社会人の志望者増加につながる施策の検討

専門学校

- 専門学校を取り巻く非常に厳しい状況を踏まえ、県立2校を含めた専門学校のあり方について関係者も交えて議論を深めつつ、入学者数の増加に向けて修学資金の見直しや学生確保、専門学校の魅力向上とともに教職員の負担軽減など専門学校が抱える課題への対応が必要

大 学

- 県内の地域医療を担うリーダー的な存在となる学生の確実な確保に向けて地域枠制度の見直しや、県内学生の県外大学への流出を抑止する取組が必要